

6. その他の合併症について・・・簡潔にお伝えします

唾液は口の中を潤す作用のほかに、口腔内を弱アルカリ性に保ったり、初期のむし歯を修復するといった「歯を守る」作用や、口の中の汚れを洗い流す(浄化する)作用などがあります。放射線治療の影響で唾液の分泌量が少なくなるため、これらの唾液の作用の低下により起こる口腔内トラブルを知っておくことも大切です。ここでは、「カンジダ性口内炎」と「放射線性う蝕(しょく)」、「味覚障害」について、簡単に説明します。

<カンジダ性口内炎>

唾液量の減少で口腔内の自浄作用や免疫作用が低下して、カンジダ菌(カビの一種)が増殖し感染が拡大します。取り除きにくい白苔がほほやのどの粘膜に生じます。ピリピリやチクチクとする弱い痛みを伴います。入れ歯を使用している人は、リスクが上がります。

しょく <放射線性う蝕(むし歯)>

「う蝕」とは「むし歯」のことです。唾液量の減少で口腔内の自浄作用や免疫作用が低下して、むし歯から歯を守る力が弱くなるためむし歯が発生しやすくなります。

《カンジダ性口内炎》



《放射線性う蝕》



※ この小冊子では、放射線で起こるものを「粘膜炎」、細菌やウイルスで起こるものを「口内炎」と呼んで区別しています。

<味覚障害>

味を感じる組織(味蕾;みらい)は放射線の感受性が強く、放射線治療の影響で味の変化や消失などの味覚障害が発現しやすいです。また、唾液には食べ物の味(味質)を味蕾(みらい)に届ける作用もあるため、唾液の分泌量が低下するとその影響で、味を感じにくくなるとも言われています(二次的原因)。一般的には味覚は、治療が終了して半年間かけて徐々に回復します。



《唾液の豆知識》

ここで、意外と知られていない唾液の働きについてまとめておきましょう。

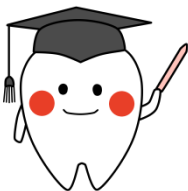
●唾液の働き①;唾液と食事

唾液は食物に適度な湿潤を与え、食物のパサパサ感をやわらげたり、デンプンを消化する働きがあります。また、味質を味蕾に届ける作用があります。

●唾液の働き②;口の中と歯を守る

口の中の粘膜に被膜を形成し、表面を滑らかにし、粘膜が傷つきにくいようにしています。また、歯の表面や口腔内を洗い流して口腔内をきれいにしたがり、口の中の酸性度を弱アルカリ性に維持して、歯が溶けないようにして、口の中と歯を守っています。唾液には多少の殺菌・消毒作用があるとも言われています。

だから口が乾くと・・・



「飲み込みづらい」、「味がしない」、「口の中がべたべたする」、「しゃべりづらい」、「ヒリヒリ痛い」、「むし歯になりやすくなる」、「口が臭う」、などの困ったことが起きます。

「唾液」って少し汚いイメージがありますが、大切ですね。